全日本鍼灸学会認定委員会審査委員である
せりえ鍼灸室小井土先生から MOXATH の推薦文を頂戴しました。

私が MOXATH を知ったのは、2018 年に受講した「あはき臨床実習指導者講習会」の会場でした。会場の入り口付近に展示されていた MOXATH の前で立ち止まり、勧められるまま、左の親指と人差し指で艾をひねり、線香で火をつけ、右の人差し指と中指で艾柱を挟み込み、空気の量を調整しながら、ホワンと温かく感じる程度の温度に調整したお灸をもぐさ台の上にすえました、いつものように。

すると、パソコンの画面には、私がすえたお灸の温度が、35℃をピークに緩やかに下降していく様子がリアルタイムにグラフで表示されていました。熱いお灸から温かいお灸まで、すえる前の状態とすえた後の状態を、その都度触れてその変化を観察しながら、自分が目的とする変化が起きるように調整しお灸をすえることがあります。その時は、ホワンとした温かいものがお灸をすえた場所の奥にしばらく残るようなお灸を試してみました。

体調が良いときの、私の手のひらの温度は、食べ物の温度を測る非接触型の簡易温度計で計測すると 34℃前後です。私がその時に試したお灸の温度は、私の手のひらの温度よりも 1℃程度高いことが、初めてわかりました。これは、良くできた機械ですねと、その場を後にしました。

マウスやヒトなどの哺乳類には、固有の温度域で活性する温度感受性 Transient receptor potential(TRP)チャネルが存在し、それらの温度受容体により環境や体温の変化を感知していることが、最近になりわかってきました。その日、MOXATH に私がすえたお灸は、すでに発見された 11 の温度感受性チャネルのうち、30℃以上の温かい温度感知に関わるとされる表皮ケラチノサイトに分布する Transient receptor potential vanilloid(TRPV3)と TRPV4 を活性させたことになりそうです。それは、何を意味しているのでしょう？

その後、MOXATH を使用する機会があり、温度を変えて試してみると、それぞれの温度がリアルタイムでグラフに表示されました。自分の思い通りに、熱いお灸も温かいお灸も自在に使い分けができるためのトレーニングが、画像で確認しながら一人でもできる機械の登場は、灸師の教育や臨床に多くの利益をもたらしそうです。

鍼で期待した効果を上げることが難しいときに、お灸を試してみると、そのチカラに驚かされることがあります。

一方、お灸を使っている多くの臨床家は、その作用機序の解明が進むことを期待していますが、国内外を問わず、基礎研究も臨床研究もほとんど進んでいません。

日常の臨床で使い分けているお灸の科学的解明が、MOXATH により大きく前進する可能性を予感します。

多くの灸師、教育者、研究者が、MOXATH を試されることをお薦めします。